資料６－４

レクチャー映像の改修について

1. 背景

知床五湖 FH でのレクチャー映像は、知床五湖の利用調整地区の立入認定手続きで最も重要なプロセスの一つであり、知床五湖の利用適正化計画における安全・適正利用対策の中核を担うものである。知床五湖の原生的な自然環境の保全と適正な利用を両立させ、利用者の満足度と安全性を高めるために重要である。しかし、現状のレクチャー映像は、情報が古い、利用者の傾向を押さえた映像構成や演出になっていない、多言語への対応が不十分、といった課題があり、利用適正化計画の改定内容と合わせてそれらの対応を反映した改修を行うこととした。

2. 今年度および来年度の取り組み

今年度は、知床財団を中心に登録引率者（別紙）や専門家へのヒアリングを行い、構成案（別添）を作成した。来年度以降は当該校正案をもとに、登録引率者・科学委員会の委員の方への追加ヒアリングを行い、レクチャー映像及び放映機器の改修を行っていく。

3. レクチャー映像の改修について（来年度業務）

「植生保護期映像（約 8,9 分）」と「ヒグマ活動期映像（約 8,9 分）」の映像について、これまでの対応蓄積から、より“分かりやすく”“現実味を持ってもらえる”映像となるように改修を行う。また多国籍の利用者に対し、ヒグマに対する考え方や遭遇時の対処法を適切に伝えるため、映像構成や多言語表示の工夫を行う。

また同業務内で「ヒグマ全体編（約８分）」として、一般観光客向けとして、知床の各施設での放映を想定した、知床全体におけるヒグマ対策を解説する映像も新規作成する。加えて、レクチャー映像の改修に伴い、口頭レクチャーの内容やマニュアルの改定を別業務で実施予定である。

4. 放映機器の改修について（来年度業務）

見やすさ及び多言語対応の観点からモニターのサイズアップを行う他、分かりやすくメリハリのある映像構成とするため、マルチ画面での放映を行うことを想定。

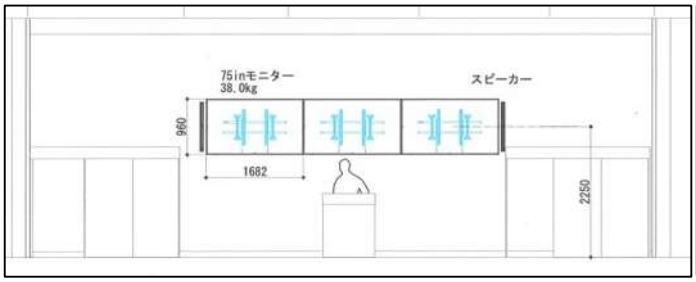


図１レクチャールームの構造図

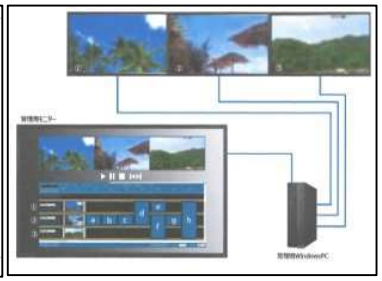
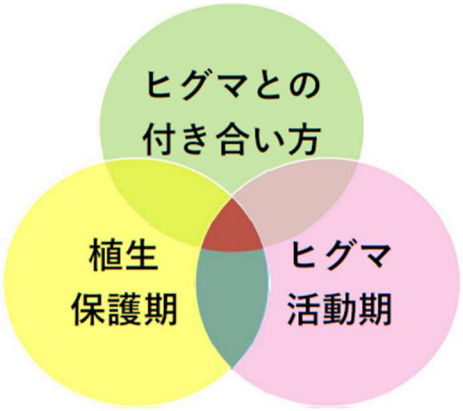


図２マルチ画面での放映

資料６-４別紙

レクチャー映像改修に向けた登録引率者意見まとめ



全て共通	■ヒグマは危険動物であることを念押し。 ■映像の多言語化 ■禁止表現や命令表現を減らす。 ■用途ごとに内容がぼやけないように
ヒグマとの付き合い方	■ヒグマとの軋轢発生後の対応を具体的に示す(ヒグマの捕殺等)。 ■防御姿勢をより詳しく。 ■食品の管理徹底について理由等をより詳しく。 ■道路沿いでヒグマを目撃した場合の注意及び対処について。 ■公園内におけるヒグマとの軋轢についても紹介。
植生期・ヒグマ期共通	■食品だけでなく、水,お茶以外の飲み物の持込禁止について映像で訴える。 ■なぜ一方通行なのか、引き返せないのかについて理由説明。 ■音楽が多すぎる。 ■ヒグマに会う場所ではなく、遭遇を回避して歩く場所であると明示。 ■遭遇時の対処をもっと印象に残る内容に(防御姿勢の印象に負けている)。 ■認定証の注意事項が日本語のみのため、外国の方は再確認ができない。 ■ヒグマの生息地に入る心構えを示す。 ■利用調整地区制度の説明。 ■ロープ外に出ないことを強調。 ■ドローン禁止について強調。 ■実際の遭遇のシミュレーション映像を入れる。
植生保護期	■ヒグマ遭遇時の退出方向を例示。 ■ヒグマ遭遇時に引き返すことをより強調。 ■最後の注意事項まとめが長い。
ヒグマ活動期	■ヒグマ遭遇時の流れを示す。 ■「ヒグマに出会わないために」の声出しはガイドがするため必要ない。 ■離脱することはできない、歩行スピードは決まっていることを明示。 ■ヒグマ遭遇時の「慌てず騒がず一つにまとまる」を映像化(NGと対比)。 ■他の班がツアー中止となったら全ツアー中止となることを明示。